夕刊
十一月十八日發行
定價 一ヶ月 金五十錢
發行所 磐城新聞社
(日曜祭日翌日休刊)

好間の炭鑛研究

發達史と現狀及將來

吉川生

(10)

所謂成金時代を現出したのであつたが後戰後の反動衰退と殘炭掘となつた爲好大規模經營である古河炭坑の計劃に合せず大正十二年頃一時中止と共に十二月小田吉次氏に讓渡され經營宜しきを得、現在(昭和八年)で從業員百數十人約二百噸を産出する盛況を持續してる

ト、平炭坑

明治四十年東京の人高野滿藏氏箕輪村大字大利及北好間字下ケ屋敷地內に橫坑を開鑿して平炭坑と稱して上層炭の採掘をし現三坂街道に沿ひ北側山上に運炭トロ鐵道を敷設して北好間三反田地內で好間專用鐵道で送炭した。後大正二年草野村人高岡唯一郎氏に經營の一切を讓渡し下ケ屋地內に斜坑を開鑿し、前の運炭線を廢し、新たに椎木平まで線路を設けて好間專用鐵道によつて搬出したが、大正七年には更に大日本炭鑛株式會社に讓渡され、前斜坑は第一斜坑と稱し、更に好間箕輪の境界附近三坂道路下に第二斜坑、大利は表山地內三坂街道上に第三斜坑を下ろし、各坑を連絡する運炭線を設けて惡質の石炭であつたが、大戰後の好景況と共に隆昌を極め、大戰後の不況にて惡炭故に販路に窮して大正十一年三井炭坑株式會社に讓渡と共に廢坑となつた

隆昌時には五六百の坑夫を使役し、板木澤の南側の田籏には第一第二の斜坑の從業員の長屋が櫛比しておつたが、廢坑の慘さは顧みる者なき廢家の墟と化し狐狸の棲家と思はれる狀態となり後幾ばくもなくその跡もなく只炭滓と巨大なる煙突の姿を見せてゐた

チ、好間炭坑

本炭坑は當村に於て新式採炭法により大規模經營を開始した最初の炭坑である

即ち明治三十六年入山炭坑株式會社々長白井遠平氏は合社長を辭して當村炭層の有望なるを知り之を採掘中の本田萬治郎氏及その他數氏の鑛區を買收し自己出願の鑛區を合して現在古河隅田川(小田)小田萩原の三炭坑の鑛區を合する約三九〇萬坪の大鑛區を背景として事務所を北好間字堂田に設け好間街道平町七間町胡摩澤を通ずる二、五哩餘の運炭輕便鐵道を敷設して平驛構內西側に積込場を設けて東北關東方面に販賣した

本炭坑は日露戰捷の餘力による需要と戰後經營の好況が大工業を促進せしめた我國石炭界の發展の第三期に相當する時期に遭遇して離地內には十數ケの橫坑を開鑿する等の隆盛なりし爲に資本金の膨張を要し明治三十九年白井氏が社長となつて、五十萬圓の好間炭鑛株式會社を組織し、同年離地內に蒸汽機關を設置して源平野地內に第一斜坑の開鑿に着手し同時に離地內に第二斜坑を開坑し、ために出炭の增量は益々時代の要求に融合して、運炭線の輕便鐵道なる不便は明治四十年一月遂に專用鐵道の必要に迫られて綴驛より離間三哩半の鐵道工事に着手して明治四十一年四月一日完成を見る。業態益々隆昌に赴いた

磐新歌壇

小山田滋選

『稻扱き』 野本多霞夫

○秋晴れの空ひゞかせて次々に稻の扱かるる手ごたへはよし

○山茶花の花ふるはせて半日を稻扱機踏む吾の足なり

○家々の干大根の匂ひより秋の深さの來る眞晝なり

○霜白き刈田耕す男あり唐鍬の柄をガッチリ握れる

○木立たゞ落葉しきりなり朝晴れの二つ矢山に眞向ひて立つ

潮聲硯静抄帳

十月集 片寄文狂

病臥半歳自慰無聊

殘菊五章

くつろいて命久しや殘る菊
垣際に一トもとさびし殘る菊
純白に殘の菊の壽命かな
殘る菊下葉さびしく見られたり
地におろす十日の菊や夕小雨

火鉢五章

手の皺を年語り合ふ火鉢かな
座したりし電話受けたり長火鉢
遠來の友に榮しき火鉢哉
日當りの椽に背向けす猫火鉢

月 佐川滿壽莊

舟下りて廓の月に歩きけり
岩蔭に蛸採る人や磯の月
海の月兎のやうな雲浮ぶ

讀みたい話

谷口安比呂

古老に聞いた話であるが明治初年頃は武士の失業者で困つた相だ。廢藩に會つて一時金は下つたもの丶相場で失敗する者、ヤケになつて吉原で裸かにされる者結局食ふに困つて番頭にでもなれば『無禮申すな』等と主人に食つて掛るので主人の方で逃げる始末。中に納豆屋になつた士は、きまり惡がり、默つて歩くので賣れない。問屋あたりからツヽかれて仕方なく呼聲を上げたが、たまに客が『納豆屋さん、もう一錢負けなさい』等と言ふと、すツかり怒つて了ひ『拙者を何んと思ふ、武士たるものは掛値はせん』等と大へんな權幕、是また客の方で逃げる始末『サムラヒの商法』とて今でも鼻つまみにされて居るが、無理もないと思 □

結婚適齡期は、男子二十八歲、女子二十二歲なりと其の差六つ、昔から『三つ違ひの兄さん』とあるは、義太夫の文句で、科學的には當らないらしい。なぜ男子が年長か?其は經濟的基礎をきづくべく、止むを得ぬに發するらしい。女の若いのは都合いゝ、鍛よつた此嫁より、彈力あるピン〳〵したのが、家庭圓滿に誂へ向きなるは言ふを俟たない

とかく生物は、女性より男性の方が立派な姿であるが、人間に於ては然らず、女には化け粧ふといふ武器がある。美人なら見たが因果で、若い男などはノボせて了ひ、たんと金を注ぎ込んだ場句、新舞子あたりで一人心中といふ、はかなくも哀れな例もある。まあ人間一度は失敗するとして、あとは其を經驗にめい〳〵注意する他あるまいと思ふ

11月19日

△俳人一茶歿す(文政一〇)△新潟開港(明治二)△關西劇壇元老嵐巖笑死す(昭和五)△スペイン前皇帝國外に追放さる(同六)

大和田醫院

社會の今日

○失敗の十中九分九厘までは半分の時間より仕事せず、餘り多くの休息する放送者である ワナメーカー

看護婦の寢姿のいびき冬襖 貝城

幕末神風組

講談 (61)

土生太郎作 高根秀浩畫

染香(六)

流れに浮んだ小舟は、雨國の安と染香を乘せたまゝ流れのまにまに流れて行つた

太い男の腕一杯の力でしめつけられて、染香はすつかり參つてしまつた。どんなにこらへやうとしてもこらべ切れぬ痛さだ

ヒイ!ヒイ!ヒイ!

染香の叫びが、夜の空氣を震はせつゞけた

『うるせい、チッとおとなしくしねエかッ』

野太い聲いつゞいて、臭味のある手がグッと染香の口をたほふた

『おい!女ッよつく聞けよ兩國の安に捕まつたからにや百年目、いくらジタバタしたつて逃がしやあしねえこちとらが、散々樂しんだ上に、オランダ船に賣り飛ばしてやるんだ。さあ、もういゝ加減で往生して了ひねえ』

そして又一しきり腕に力をこめる

『お痛ッ』

染香は目からポロ〳〵涙をこぼしながら僅に耐える

『ふむ。なか〳〵がまん强い女だよし、がうしてくれる』

安は片手を伸すと、舟底にたぐまつてゐる一筋の細をする〳〵ひき寄せて、高手小手にしばり上げてしまつた

『ざまア見やがれ!』

ドン!と蹴飛ばすと、染香の身体は舟べり〳〵當つてごろりと横たはる。はずみに舟がドッと又一ゆれ

『おつと危ねえ』

安は身体で調子をとつてから、舟尾について來た竿につかまつた

竿の力が加はると、舟は急に迅くなつた

染香は舟底に横たはつてゐて、それがよく分つた

——何處まで連れて行かれるのだらう?

といふ不安が彼女をすつかりおびえさせて了つた。が、いくらもがいてもかうなつては逃れる術はなかつた、連れて行かれるとこまで行くより仕樣がない、なるやうに只運命にまかせるより仕方がないのだ

さう思ふと段々に心がおちついて來た

空は何時の間にか曇つてゐた、黑く重くたれ下つて來てゐた

風がおちたと思つたら今度は雨か——男は無言のまゝ竿をおしてゐた

深夜、流れを辷つて行く舟、若し人目にふれゝばとがめられずにはゐない筈じあるのに、そのとがめる人も附近にはゐないらしい。夜更けだからな——染香は萬一のぎようこうをねがつてゐた

曇つた空はます〳〵黑く重く下がつて來た雨になるかも知れない

『ホイ、やつて來やがつたな』

安が、顏を撫で乍ら云つた

冷たい雨が染香の顏にも當つた、たうとう降つて來た。安は大分あはてたらしい、息をはづませ乍ら竿を押してゐた。その息ざれが染香にもハッキリと聞きとれるほど激しくなつて來た

ザッ!

ぽつり〳〵落ちてゐたのが一度にやつて來た

『こいつあいけねえ』

雨足が白く水面にしぶきを立てるのが夜目にも判る

安は無茶に竿をひた押しに押しつゞけた

ドシン!、といふ物音と共に舟が大きくおほられた

『あつ!』といふ叫びに續いてドブンといふ水音が聞えた。ジャブ〳〵つといふ水が小舟の中へはね込んで來た

舟は激しく岸に打つかつたのだ。はずみを喰つた安はもんどり打つて水中へ落ち込んだのであつた

一旦水中に沒した安は間もなく水面に浮んだ。溺れる苦しまぎれだ、助かりたい安の一心は夢中で舟の小べりに手をかけた

その拍子に『アッ!』といふ間もなく舟はてん覆してしまつた

刀劍研磨
白鞘調製
刀劍把巻
刀劍買入
研師 翠光齋 主 船生四郎
平町十五丁目二六大町通り

吸入用酸素 純度99%
モノサシ マス ハカリ
体温器 寒暖計
◎秤ノ取 緒ノ修 糸・ 換致シ マス
開內藥局 電話四〇番

電話新設參七七番
高級塗下駄 流行草履 雨傘其他
平町五丁目四(釜屋隣り)
田口はき物店 田口辰雄

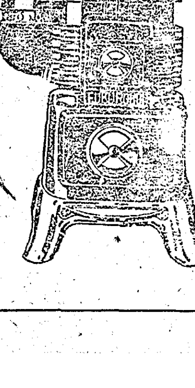
貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい
直に家政婦を派出します
親切叮寧……料金は極めて低廉です
妊産婦の御家庭 お留守居番
御病人の付添 年寄やお子さんの付添
炊事や雑用
派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二(電話[呼]六五二)
上原家政婦會
會主 産婆 上原通子

ひろい沙漠を
はるばると
駱駝に乘つて
キャラバンは
雪を踏みふみ
通つてくる
キングレコードが皆樣に贈る
拾貳月新譜中傑作流行唄
會田時計店
四丁目 電三六三

別仕立コート
今秋冬の尖端
自然美を機に上せて
織なせる卓越せる生
地を念入りに仕立ました
三井呉服店
電 38 284

夜間診療
胃腸性病
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
(平町南町電一〇七番)

完全燃燒のため煙筒掃除の要なき
日本一の……
フクロク・ストーブ



御申越次第カタログ持參御伺ひ致します。
發賣元
(久)釜屋商店 平町五丁目 電話九番
(ツ)阿部石炭商店 平驛前 電話三七番

安價で効果的な天然加里肥
最も適應する作物!!
蔬菜、馬鈴薯、里芋、しやうが類
☒茄果類ではトマト、茄子の如き比較的病害に弱い作物に施用すれば抵抗力を與へ落果を防ぎます
天然加里肥は酸性でないから
☒如何に施用しても土壤を惡變する虞は絶對にありません
一俵 參拾錢
(大量取引は特に割引致します)
製造販賣 金成國雅
平町鎌田 電話六八八
トラック
貨物自動車の御用命に應じます

暖モノ、季節ニ相成マシタ
皆樣の平樂も此の度美給のサービス。
共に平樂の特製調理致します。
カキ貝料理
平樂チュー 特製ランチ
鳥牛豚ナベ類……定食
近々中に支那料理も始めます。
平町二丁目
平樂亭
電二九六番

家鳴り震動も物凄く 風伯地方一圓を脅かす
數へ切れぬ近來の大小被害

昨日正午頃から郡下一圓を襲ふた秒速十二米の烈風は時の移るに隨つて愈々激しく一時は歩行も困難な程で各地の電柱、屋根、看板、門扉などの倒壊數知れぬ中に

平町新川町裏製紙工場の直徑二尺高さ二十二間の石綿煙突は午後二時頃大音響と共に西方に倒れ工場を斷段し△尼子橋欄干十五間破壊△昨秋湯本工場に設備一切を移轉の彌宜町品川煉瓦工場は土臺骨の不完全な處からさながらマッチ箱をつぶした如くに倒壊△縣社境內高十米の老杉が根こそぎ倒る

など風伯の暴虐は一時筆舌につくし得ない程で自動車ポンプの絶ゆ間ない巡回や各區火防組の非常警戒など近來に無い物々しい光景を見せたが小名濱測候所の觀測通り夕刻から凪ぎ出し人皆家鳴り震動の恐怖から救はれた、東部電中營業所でも電柱、線の故障はあつたが直に復舊送電には支障を來たさなかつた

小川江筋水路擴張着手
廿五日地鎭祭と起工式

小川江筋水路擴張工事は工費十萬三千圓二ケ年繼續匡救事業として愈々來月一日より着工すべく來る廿五日午前十時から畑山知事以下を招き下小川村大字關場源水門に於て地鎭祭並に起工式を擧行する

名刹の炎上に鑑み 國寶保護計劃
阿彌陀堂近く面目一新

名刹閼伽井嶽常福寺の炎上に鑑み平消附組頭井上茂作氏は既報の如く郡下唯一の平羅國寶特別保護建造物白水阿彌陀堂に對する防火施設を提唱したがこれに刺戟されて地元內郷村民も漸く深重の關心を持つて來たので今十八日は午前十時から横山平署長、小林土木監督所長外關係者と共に夫々調査の上急遽計劃を進むる事になつたが該計劃の大体は緩から阿彌陀堂に至る道路及境內の擴大避難區域の設定、時間外出入遮斷の設備など之が保護上間然する處無きものでその實現は地元民を初め各方面から待望されて居る

一秒に一字半送受信
全國通信競技に出る 平驛佐久間君の指頭藝術

過般水戶市で開かれた通信競技大會で見事選手權を獲得した平驛佐久間廣君は愈々來る廿二日東京の全國通信競技大會に臨むべく目下猛練習を續けて居るが昨十七日は東鐵に出張現場に於て練習をなした、尙同君は甲種で一分間九十字を送受信すると

書方入賞兒
けふ賞狀授與

去四日縣女子師範學校で同附屬小學校主催、第二回縣下兒童書方展覽會の左記入賞狀は今十八日到着した

△第一―鈴木勝彌、龜山正邦(尋四)青木榮(尋五)關原定之(尋六)

第二―酒井正子(尋二)高橋京子、大和田キヨ子(尋三)梅津吉子(尋四)根本つね子、吉原ふみ(尋五)江尻みや子、廣邊昌子(尋六)

第三―鈴木健三、入江壽一松崎孝子(尋三)永島佳子(尋四)

入營送別會
廿日平町で開催

平町では來る廿日午前九時から縣社小鍬倉神社前に於て今年度入營兵奉公祭終了後同十時半より聚樂館に於て一般送別會を催すが會費は四十錢であると

。。。。入營兵送別會　下小川村では近く入營する左記十名の爲明十九日午前九時から小學校に於て送別會を催すと

(高田山砲隊)西山七郎(朝鮮七四幹部候補生)大森又平(同)草野正次(朝鮮二五野砲)市川正久(滿洲獨守看護兵)荻野一二(同)松本政保(立川飛行隊)吉田忠一(仙臺輜重特務兵)吉野健一(同)佐藤源二(近衛步兵)大森久男

。。。。入營兵奉告祭　神谷村では來月十一日午前十時から小學校に於て入營兵士奉告祭を催す

。。。。自動車体檢查　平署管內百八十臺の自動車々体檢查は來月九日より八幡小路に於て執行する

乘降客のみかは 貨物も黑字續き
朗かな昨今の平驛

黑字黑字への快い躍進を續けて居る平驛の昨今は單り乘降のみにとゞまらず貨物の方にも好況を反映して居る、即ち七月以降の發着噸數は

	發	着	計
七月	三、二二四	九、〇〇二	一二、二二六
八	二、九〇四	八、一六八	一一、〇七二
九	三、五七八	八、二六五	一一、八四三
十	四、〇六九	九、五五八	一三、六二七

で去月に至つては一躍約二千噸の激增を示してをるが同月の發送の主なるものは木材一八七噸、果物一三二噸、到着は臺灣米其他白米五九六噸を筆頭に木材四八六噸、鹽二八五噸、鐵二三四噸、石油一五九噸、果物八二噸が主なるもので今月に入つてからも引續き增加の一路を辿つて居ると

。。。。農組織員研究　郡下農事組合議員事務研究會は來る廿六日午前九時から平圓体事務所樓上で縣佐久間主事補及福島支會渡邊主事臨席開催する

第一校兒童の町別就學數

第三校の增築に伴ふ通學區域の變更上第一校では過般來十一月一日現在生徒町別數を調査中であつたが此程千五百四十名の內譯左の如く判明した

區分	尋常	高等	計
一丁目	三七	四	四一
二丁目	二九	一	三〇
三丁目	二八	一	二九
四丁目	二三	一	二四
新町	五	二	七
研町	二四	二	二六
長橋町	五八	一〇	六八
古鍛治	七八	一六	九四
材木町	四三	五	四八
堂の前	一五	三	一八
南町	七二	一二	八四
仲町	三一	五	三六
大町	三八	五	四三
十五丁目	一八	三	二一
鍛冶町	二三	一	二四
田町	九九	七	一〇六
紺屋町	七七	三	八〇
久保町	四三	四	四七
道匠小路	八	一	九
大館	一〇	一	一一
七軒町	一一	―	一一
胡摩澤	五三	八	六一
四軒町	三三	六	三九
梅香町	四	一	五
柳町	二二	五	二七
仲間町	五五	八	六三
番匠町	六	―	六
鷹匠町	二五	一	二六
九品寺前	五	一	六
白銀町	五一	八	五九
才槌小路	七四	五	七九
舊城跡	四四	八	五二
杉平	二七	一	二八
六間門	二四	一	二五
櫻町	一三	二	一五
八幡小路	三一	二	三三
揚土	三	―	三
北目町	二八	五	三三
鐵道官舍	三四	六	四〇
小太郎町	二	―	二
正月町	二	―	二
六人町	―	一	一
五丁目	―	三	三
新川町	三	七	一〇
立町	―	五	五
鎌田町	―	一四	一四
彌宜町	一	八	九
正川町	―	五	五
月見町	―	一〇	一〇
下河原	―	三	三
三倉町	―	二	二
大工町	―	六	六
計	一、三〇七	二三七	一、五三四
他町村			六
合計			一、五四〇

自動車屋の云ひ分 町當局を怒らす
紛糾の停留所問題 横山署長何とか斡旋か

平驛前廣場を追はれて折角見付けた田町三二三屋肉店前の停車も交通上町當局から抗議を申込まれ目下受難時代を現出して居る乘合自動車業者が頻りに其筋の諒解云々を振り廻すに町當局では一層氣を惡くし今十八日平署長に對し內郷村大勝定治氏外西營業者所有車約二十餘臺の處置方を照會したがこれで横山署長の斡旋により何等かの善後策がたてられるであらう

男師專攻科生參觀

縣男師專攻科生三十名は既報の如く昨十七日午前來平、平第三小學校の施設經營及算術、圖畫兩科の教授振りを參觀し午後からは講堂に於て同校三年生松崎ユキ子さんのオルガン演奏と共に唱歌會を催した

。。。。火葬場修理　昨日の暴風に平火葬場屋上瓦約一坪がはがれ尙煙突下が漏火するので近く修繕すると

汲取口に頭を入れ 女性の便所を覗く
變態性の小僧捕はる

昨十七日午後二時頃平第二校高等科二年生平町鎌田町佐藤ユキ(一六)假名―が上圖中汲取り口より覗き込んで居る痴漢あるを發見悲鳴をあげたので飛び出した職員が逃ぐるを追つて難無く取り押へ平署に突き出したが右は平町田町某商店小僧相馬郡小高生れ横山五郎(一六)假名―で從來かゝる變態的惡戯の常習少年である事が判明、目下嚴重取調べ中であるが昨夜當のユキ子さんは『黑い手がニユウと出たので吃驚しました……職員室で色々訊かれたが初めは言葉も出なかつた程驚しました』と語つて居た

差押物件公賣

彌嵩む滯納に惱されて居る平稅務署では來る廿七日より左記日割りにより差押へ物件の公賣處分を斷行すると

廿七日―江名、勿來、小名濱、平窪　廿八―小川、玉川、植田、田人、湯本、赤井　廿九―上下小川、平窪　卅―四倉

街の紳士旅館を欺く
自稱記者平署に留置

當時平町字白銀町九居住水戶市奈良屋町二五生れ興行師黑田壯介(三七)は去る十日午後七時頃平驛通り新藤屋事武田ウタ方へ東京淺草區新聞社員吉村績布(三二)と詐稱して投宿、宿料二圓六十錢を踏み倒して逃亡した外二件の無錢飲食をなし此程平署柏木刑事に檢擧された

養家を顧ぬ婿に 離緣の訴訟提起
平支部で棄却され控訴

赤井村大字西小川字田頭五鈴木與太郎は大正八年九月政長を養子とし、十月長女ふじと結婚させ、政長とふじとの間に一男二女をあげたが大正十三年十二月ふじが死亡したゝめ、同十四年政長は馬上ちうと事實上の婚姻をして與太郎方に同居をつゞけた所が昭和四年一月政長は與太郎と一言の相談もなく子供を置去りに家出し、爾來四年間一度も與太郎方に出入せず、與太郎が數次病氣しても一度も見舞せず、その上數々の侮辱の言動あつたとて與太郎は福島地方裁判所平支部に政長を相手取り離緣の訴訟を提起棄却となりこの程宮城控訴院に控訴した、第一回の辯論が十二月十二日開廷される

吉田家不幸

平町白銀町吉田禮次郎(案氏襲名)氏令弟致君は過般來病氣の爲東京市京橋區木挽町南胃腸病院に入院加療中の處十五日午後九時三十八分長逝した、行年二十七歲葬儀は明十九日午後一時日本基督教會に於て告別式を執行大寶寺に埋葬すると

。。。。法人研究總會　平稅務署管內法人稅務研究會總會は來る廿四日午前九時から同署樓上で開く

自作農維持創設 資金貸出額

自作農維持創設資金貸付審查會で決定した被貸付者は維持資金四十一名、創設資金二百六十九名であるが郡下關係の分左の如くである

(創設資金)勿來町菊地福壽一、三〇〇、小名濱町堀越政次二、〇〇〇、川部村加藤淸之助一、一〇〇

。。。。名尾教諭榮轉　磐中教諭名尾嘉作氏は今十八日付宮城縣古川中學校教諭に榮轉近日赴任する事になつたが氏は六年四月より運動部長として盡力した人で今回の轉任を惜まれてゐる

崩壊した岩石で 頭蓋骨を紛碎
一名卽死 築港人夫外二名重傷

小名濱町定西三二土工高木淸治(四三)は昨十七日午前十一時頃同僚二十餘名と共に同町字小屋の內三一山中修港工事採石中岩石崩壊頭蓋骨を紛碎卽死した外二名が重傷を負つた

。。。。鈴木訓導歡迎　第一校では今十八日放課後理科室で新任鈴木嘉一訓導の歡迎會を催した

。。。。日和橋架換　四倉町救濟工事の仲町新町間日和橋架換工事(工費千七百圓)は今月下旬より着工すると

。。。。鼠賊に一年　平町大工町一六前科二犯遠藤軍治(三八)が去る二日午前十時頃四倉寅吉所有の中古自轉車一輛(價格十圓)外數件の竊盜を働いた事件の公判は今十八日平區で關口判事係、濱田檢事關與開廷懲役一年を言ひ渡された

。。。。海面稅賦課町會　四倉町では明後二十日町會を開催海面稅賦課其他四件を附議すると

滿洲子供漫畫 (9)

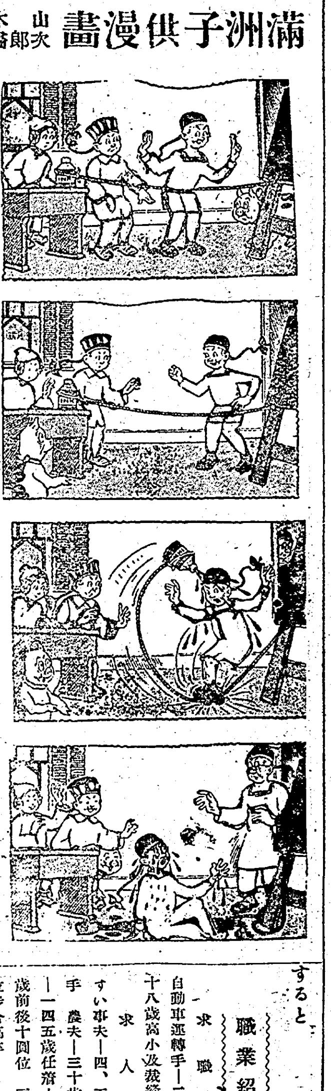
山木次郎畫

一、太郎『先生の來ないうちに繩飛びしよう』

二、黑板とインキ壺に繩を結んで

三、次郎『ドンナモンダイ』といつた拍子に

四、次郎『アッ!シマッタ』先生『なにをしてゐますか』



職業紹介欄

求職

自動車運轉手―二十一歲
十八歲高小及裁縫學校卒　女中―

求人

すい事夫―四、五圓　トラック助手
農夫―三十歲迄面談　小店員―一四五歲住込小遣　雜役―二十歲前後十圓位　豆腐賣子―三十歲位步合高卒

平町慶弔錄

▲死亡　平町字才槌小路二八菊地幸次郎(六八)

舊十月二日　日曜　己丑　大安　蒲　房宿　新十一月十九日

諸判定應需　東京市本鄕區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神宮館

▲一白の人　人の落度が我が身に振りかゝる日口入無用▲二黑の人　大望を企て手に餘る事あり分限を堅く守れ▲三碧の人　過ぎたるは及ばす情も仇となる事あるべし▲四綠の人　努力次第にて手腕を揮ひ得る日親密亦肝要▲五黃の人　稼ぐに追付貧乏なし定業を勵めば利を增す▲六白の人　任重くして油斷のならぬ日努力次第にて吉▲七赤の人　近きを整へ遠きに及ぼすべき日自ら進展す▲八白の人　人を容るゝの量無ければ邪魔の入り込む日▲九紫の人　守勢より攻勢に轉すべき日追々と目的成る

舊十月三日　月曜　庚寅　赤口　平　心宿　新十一月二十日

▲一白の人　內事は至極安全なれども外出には注意の日▲二黑の人　良運にして多少の無理もきずなのこすことなし▲三碧の人　捕へし手より鰻の辷り出すが如し盜難注意▲四綠の人　雄大なる計畫も一とんざを來たさんとする日▲五黃の人　焦りて術動あるべし萬事深慮すればとがなし▲六白の人　忠實を主とし過大の望みを起さざれば安全▲七赤の人　迷ひを去り業務を手堅く勵むときは利あり▲八白の人　豫定以上の收益を見る日▲九紫の人　爭論を起し易く金錢上のもん着を生ずる日

赤井嶽藥師。二ッ箭山。桐ヶ岡山ノ神の御參詣。夏井川溪谷(東北の耶馬溪)の雪景。もみぢ。岩つゝじ。深綠、四季折々の遠足。遊覽絶好の御土產!……

…品質保險風味絶佳…

磐城土產　靈峰(みやま)やうかん　金十錢　金二十錢
小川郷驛前　發賣元　平屋賣店
平地方各商店にてお賣りして居り升

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋　和洋銅物　(久)　釜屋商店
磐城國平町五丁目　電話九番　九九番　振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は(久)の生命なり

耳鼻咽喉科專門　醫學士　鈴木正男　平町田町(電話五八番)藤田女學校前
齒科口腔外科　日本齒科醫學士　鈴木喜政
『入院のお需めに應ず』
內郷村高坂磐炭病院前
鈴木醫院